

---

神戸港港湾審議会 第34回計画部会

議 事 録

---

## 神戸港港湾審議会 第34回計画部会

### 1. 会議の日時及び場所

- (1) 日 時 令和4年3月16日(水) 午後3時00分開会  
(2) 場 所 神戸市役所1号館28階 神戸市会第4委員会室(web併用)

### 2. 出席委員の氏名

#### (1) 学識経験者

竹 林 幹 雄 石 黒 一 彦  
古 莊 雅 生 山 縣 宣 彦

#### (2) 市会議員

平 井 真千子 堂 下 豊 史

#### (3) 港湾関係者

中 井 拓 志 (代理 森 郁 雄 )  
浦 隆 幸

#### (4) 関係行政機関の職員

東 川 直 正 (代理 松 本 英 雄 )  
加 瀬 和 浩

以上、出席委員10名(うち4名 web での出席)

欠席委員 0名

### 3. 議事の経過概要及びその結果

#### (1) 開会

#### (2) 委員の出席状況報告

委員総数10名中出席委員10名であり、本会議は有効に成立していることを報告

#### (3) 委員の紹介

#### (4) 神戸港港湾計画の軽易な変更について

事務局から説明

(資料-1 神戸港港湾計画変更(軽易な変更)について(諮問)(写))

(資料-2 神戸港港湾計画書(案)ー軽易な変更ー)

(資料-3 神戸港港湾計画資料(案)ー軽易な変更ー)

(資料-4 新港第1～第2突堤間における水域活用計画(案))

#### [質疑等要旨]

(委員) 3点質問があり、まず一つに、防波堤に突起が出ているのは何か。また、第1～2突堤背後の倉庫は今後どうなるのか。最後に、「自然的環境を整備又は保全する区域」のイメージについて教えていただきたい。

(事務局) まず防波堤の突起部分は、航走波等を防護するための副防波堤として位置付ける。次に、第2突堤基部の倉庫は、建物は残っているものの既に移転済みであり、この

土地も順次事業化していく予定。また、「自然的環境を整備又は保全する区域」の具体的な内容は今後の検討となるが、例えば、磯場に藻場が造成され、ブルーカーボンの取り組みに繋がるような区域として考えている。

(委員) 水域活用について、いつまでに事業を具現化していくつもりなのか。

(事務局) 来年度に防波堤の設計を開始し、早ければ来年度後半にも工事着手したいと考えており、事業者公募についても来年度着手する予定。提案内容によって事業規模が異なるため、現時点で詳細なスケジュールは未定であるが、2025年開催の大阪・関西万博には、多くの方々が関西に訪れるため、ウォーターフロントエリアの魅力をPRする絶好の機会である。2025年の供用を一つの目標として事業に取り組んでいきたい。

(委員) 今後の水域活用の検討にあたり、マリーナ以外の選択肢を含めることも可能なのか。

(事務局) サウンディング型市場調査では、スーパーヨット等を係留可能にすることで、高い経済効果を得られるという意見を複数いただいた。そのためマリーナは一つの有力候補であるが、市民に開かれた水域として、イベント開催や環境学習の場など様々な活用を想定し、事業者の選定を行っていきたい。

(委員) 須磨や芦屋、西宮など他のヨットハーバーとの関係性はどうか。

(事務局) 大阪湾内のヨットハーバーへのヒアリング調査によると、大型のクルーザーを係留する場所が満杯で断っている状態と聞いており、当該水域を仮にマリーナ的に使用する場合は、中型～大型のクルーザーをメインにすることで、他のヨットハーバーと差別化が図れると考えている。

以上の審議の結果、満場一致により原案を可決した。

(5) 閉会